

## はじめに： 国際交流基金における「文化と平和構築」に関する取り組みについて

今日の世界では、国家と国家による戦争がない状態を即ち平和であるとは言えず、「戦争未満」の状態でも、様々な紛争の火種が個人や民族や地域の関係の中に内包されていると言える。

そのような認識のもと、国際交流基金は、文化、芸術活動や、青少年交流が、より平和な国際関係、地域間関係のために果たしうる役割は多岐にわたっているとの視点に立ち、2008年3月、過去数年間に国際交流基金が行ってきた各種文化交流事業の中で、文化を通じて平和に資する試みを行った事業例をまとめ、「文化が創る国際平和：平和構築と文化」と題した小冊子の形で刊行した。

2008年度からは、この「平和のための文化イニシャティブ」という理念の共有と討議、過去の事例の洗い出し、そして将来に向けたプログラム開発を目的として、ドイツの文化交流機関であるゲーテ・インスティトゥートと国際シンポジウム・シリーズを開始した。

2008年12月に、ゲーテ・インスティトゥートからハンス＝ゲオルグ・クノップ事務総長とクリストフ・バルトマン事業部長を東京での準備会合に招き、二機関の過去の事例について集中的に討議した。また、その成果を踏まえ、2009年5月14日-15日に「平和のための文化イニシャティブの役割：日独からの示唆」と題した国際会議を東京にて開催した（主催：国際交流基金、ゲーテ・インスティトゥート／共催：毎日新聞社）。本報告書は、同会議の専門家ワークショップ（初日）および公開シンポジウム（2日目）の概要を主に発表原稿、資料をまとめたものである。

両日とも、ゲーテ・インスティトゥートからクノップ事務総長とバルトマン事業部長の参加を再度得るとともに、同インスティトゥートの紛争地における事務所勤務者（アフガニスタン、レバノン）や、彼らの文化イニシャティブに参加したアーティストにもご登壇いただき、日本側からも、平和や紛争の問題に取り組んできたアーティストや有識者をお招きして、有意義な議論を尽くすことができた。

上述の小冊子刊行のための調査および全体のコーディネーションについて福島安紀子国際交流基金特別研究員の助力、またシンポジウム・シリーズの開催にあたっては青山学院大学国際交流共同研究センターの協力を得たことをここに感謝とともに記す。

会議開催にご協力いただいた登壇者、共催者、および関係各位に感謝するとともに、この記録が今後の更なる事業開発の参考となれば幸いである。

2009年12月  
国際交流基金